

第2話：「熱くなれ 横浜家族」

5月21日。午後からは5月らしい青空も広がったこの日、春季大運動会が開催されました。今年のスローガンは、「熱くなれ 横浜家族」です。優勝旗をかけて熱くたたく、仲間が最大限の力を発揮できるように応援し、31張のテントに囲まれた会場が一体となって、家族のようにほのぼのとして温かい関係を築いていこうという意味が込められています。

子どもたちの演技を見て、気付いたことが3つあります。

1つ目は、ダンスやソーラン節、組み体操などで、指先や足首を伸ばして、大きな動作で演技をすることです。一人が指先や足首を伸ばすことで数cm動作が大きくなります。それを全体で取り組むことにより、会場全体では数百cm大きくなることになります。**集団としての美しさ**とともに、一人一人の**指先まで神経の行き届いた緊張感**のようなものも会場に伝わってきました。



2つ目は、楽しく演技をするということです。演技することの楽しさや喜びを体全体で表現することにより、会場のみなさんに感動をお届けすることができるのだと思いました。1・2年生の、「ダンシング玉入れ」では、手を腰において、ダンスをしていたかと思えば、曲と笛を合図に玉入れをするという動きを繰り返す子どもたちのかわいらしさに、会場からは思わず歓声が上がりました。また、ダンス「ALOHA」でも、子どもたちは、歌を口ずさみながら演技をすることにより、自然と明るい笑顔を会場に届けることができていました。

3つ目は、地域の文化の継承です。運動会は学校だけでなく、地域の方々にもたくさんのご支援とご理解・ご協力のもとで開催しています。実際に「曳船」や「横浜おどり」は、事前に地域の方にお出でいただき直接ご指導いただいたうえ、本番でも、生歌にのって演技をさせていただきました。子どもたちは、運動会で1～4年生は「横浜おどり」、5・6年生は「曳船」を演じることが、自然な形で定着しているように思いました。地域の力を感졌습니다。



このように運動会のさまざまな経験を通して、子どもたちが、「以前の自分よりもできるようになったこと」「目標が達成できたこと」などを自覚して自己肯定感を高めるとともに、他者のよさやすばらしさをみつけて認め合うことにより、学級集団として、そして学校全体が横浜家族として成長することができると思います。そのために、子どもたちの活躍ぶりを「見える化」していきたいと考えております。

校長 寺岡 成希